

蕨・宝樹院から  
川口・長徳寺への散策



蕨・宝樹院



川口・長徳寺・寒松堂

令和3年1月25日 文責 清藤 孝

## 宝樹院から長徳寺への散策

令和2年初夏。「一本杉保存会」による「渋川公ご夫妻」の供養祭が「宝樹院」にて行われた。会員の方に誘われ私も参加しました。集合場所は宝樹院寺務所でお茶とお菓子をいただき少しの談笑。ご供養の時間となり会員一同（60人位の多数）墓前に参じ、会長さんからの挨拶にはじまり、参列者全員にお線香が手渡されました。そしてご住職の朗々とした読経のなか、各自が墓前に供養の香を手向け合掌しました。

蕨城主の渋川公への今日の供養祭は、渋川公没後453年（没年・永禄十年・1567）のことと思われませんが、この供養祭に参加できたことから、ご先祖を大切にされている皆様の心根の優しさにご先祖を敬愛する姿を目の当たりにして感慨深いものがありました。

ご本堂を見上げれば、寺紋は「丸に二引両」であり、また、門前の蕨教育委員会掲示板を見れば宝樹院は、山号を金峰山と号し、臨済宗建長寺派に属し、川口芝の長徳寺の末寺となっている。そして、創建年代やご本尊等は「地藏菩薩」、また、墓所（供養塔）の造立された年代（江戸時代後期の文化十三年—1816）も書かれている。この造立にも驚嘆します。計算すれば没後250年のこととなっている。そして、造立された方々は、渋川公に仕えられた家臣団の子孫であるという。感動！ものです。



宝樹院参道

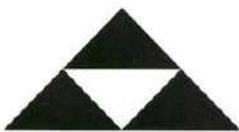
渋川公墓  
の説明板



渋川公ご夫妻の墓（供養塔）

ここで、私なりの（？）があり、少し調べてみることにしました。

\*宝樹院は鎌倉・建長寺派に属するのに、何故、寺紋が「丸に二引両」なのか？建長寺の建立の開基は五代執権の北条時頼なので、北条家の家紋「二等辺三角形の三つ鱗」となっている。それが何故？です。



鎌倉 北条家の家紋  
鎌倉 建長寺の寺紋



足利家の家紋  
蕨・宝樹院の寺紋

そこで、川口芝・長徳寺を訪ねてみることにしました。長徳寺も「丸に二引両」でしたので、ビックリしました。以前から数回は訪ねているお寺ですが、蕨・宝樹院と関連付けた見方はしていませんでしたので、改めて縁起から勉強しました。

\*「長徳寺の縁起」（境内掲示板より）・・・山号は大智山、臨済宗建長寺派。寺伝によれば南北朝時代の貞治3年（1364）鎌倉公方・足利基氏の祈願寺として、僧の秀田によって開基されたと伝えられている。

ここで、長徳寺は足利基氏の祈願寺ということが分かり、蕨・宝樹院は蕨城主・渋川氏の菩提寺との関係を見ていきます。



川口・長徳寺山門

\* では、「足利基氏」とは。ご存知でしょうか。少し書いてみます。

鎌倉幕府が正慶2年(1333)に新田義貞と足利尊氏により倒され、後醍醐天皇による「建武の新政」が始まるも、足利尊氏は公家政権への移行に意見が合わず、後醍醐天皇を隠岐の島に追いやり、京都に「室町幕府」を創立させる。(その後、後醍醐天皇は隠岐の島を脱出し吉野で南朝を立ち上げる—南北朝時代の幕開けが始まる) その時、鎌倉には「鎌倉府」を創り、弟の足利直義(ただよし)と長男・義詮(よしあきら)をその長として東国支配の都とさせたのです。しかし、ここでも、尊氏と直義の兄弟ケンカが始まり、直義は討たれてしまいます。

そして、尊氏は長男義詮を室町幕府の2代将軍への教育のため京都に呼び寄せます。「鎌倉府」の長は次男のまだ、14歳の足利基氏を就任させるのです(文治2年—1353)。これが「鎌倉公方」の始まりとなります。

以上のことから、足利基氏の祈願寺として長徳寺が建立されたということが納得できました。

### \* 蕨・宝樹院の推測

蕨・宝樹院の創建は、「年代がはっきりしませんが、観応3年(1352)以前の創建と考えられます」と山門前の蕨教育委員会掲示板にあります。

ところが、長徳寺の創建が貞治3年(1364)とのこと。これからみますと、渋川氏の菩提寺となる前には、やはり「お寺」としての存在があったと考えられ、渋川氏が蕨の地に、城郭を構えてから、改めて菩提寺とされたのではないのでしょうか。これはまた、蕨市の知識人に聞き、正しい知識としていきたいと思いますが、今のところ私の見解で勘弁してください。

### \* 鎌倉と京都の渋川氏

渋川氏は足利家の名門ということになっています。それは室町幕府の二代将軍となった足利義詮の正室に渋川家より「渋川幸子(こうし)」が嫁いでいることからです。嫡子の千寿王が生まれたが5歳で夭折し、その後はお子に恵まれなかった。しかし、側室の紀良子が義満を生む。

幸子は、義満の養母となり、義満を育て上げる。二代将軍義詮が正平22年(1367)死去すると「大御所渋河殿」と云われ、三代将軍義満の後見人となり、室町幕府に隠然たる勢力を築いたと書かれている。

この幸子のお陰か、甥・渋川義行が足利幕府から「九州探題」を命じられ、「知行地」として蕨の地を含めて22ヶ国の膨大な地を与えられていることが古文書に書かれています。

三代将軍義満は絢爛たる京文化を花咲かせて亡くなり、そして六代将軍義教は暗殺されるということから幕府将軍の権威が弱くなってきた。

そこで鎌倉府の足利公方は我も室町幕府の将軍を目指す!と言い出します。それを管領の上杉氏が諫めます。そこから内紛が発生し(「享徳の乱」)関東は内乱状態になり、それを治めようと室町幕府八代将軍足利義政は、関東に渋川義鏡を下向させるのです。その時に従った家臣団が後の蕨の地の開拓者になるのではないのでしょうか。

そして、義政の弟・政知を鎌倉に迎えるように画策するのですが、鎌倉入りは失敗し伊豆の堀越に留まり「堀越公方」となります。迎え入れを失敗した渋川義鏡は蕨の地に「蕨城」を築き隠棲することになります。

しかし、京の都も「応仁の乱」(1467—1477)が勃発し次第に戦国の世になっていくのです。



室町幕府  
二代将軍足利義詮



室町幕府  
三代将軍足利義満

\* 次に、これもご存知と思いますが、川口・長徳寺について書いてみましょう。

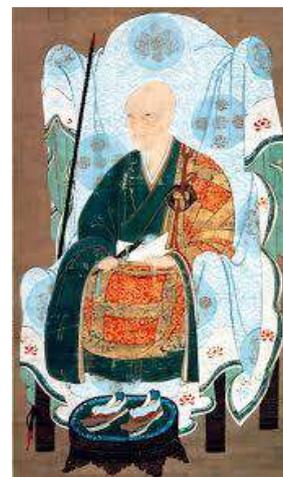
\* 長徳寺と住持の龍派禅珠（りゅうはぜんじゅ）「号は寒松」

住持の龍派禅珠は、天文18年（1549）相模に生まれ、鎌倉は円覚寺で学び、足利学校にも学び、33才の時天正10年（1582）武蔵国・長徳寺の13世住職として迎えられました。

長徳寺は貞治3年（1364）の創建であったが、龍派禅珠が就任の時の長徳寺は創建から約2百余年の時を経て寂れていたようだった。それを芝村の代官・熊沢忠勝を長徳寺の大檀越（だいだんおつ）に迎え入れ再興に力を注ぎ、中興開山の祖と言われるような大寺としました。

そして、天正18年（1600）には徳川家康の江戸幕府から寺領40石を安堵されるまでになりました。

さらには、慶長7年（1602）には、徳川家康の命により、足利学校の10世席主（しょうしゅ）＝学長も兼ね、長徳寺から馬で足利学校まで26年間通い、その復興に尽力した。その学識を認められたのであろうか、江戸城紅葉山文庫の創設にも関わるようになったという。このようなことから徳川家康、秀忠、家光との繋がりも学問を通して深かったと書かれています。更に、慶長15年（1610）には、二代将軍徳川秀忠に



龍派禅珠の頂相  
(ちんぞう)

よって鎌倉建長寺の第178代住持に任命され、4年間建長寺の住持を兼ねています。

寛永5年（1628）に、足利学校席主と長徳寺住持を退任します。退任後は、長徳寺内の臥雲軒に隠居し、寛永13年（1636）88才の天寿を遂げます。（この時代の88才とはおどろきです！）

また、生前には「寒松日暦」と「寒松稿」を著わし現在まで（県文化財）として残しています。

特に「寒松日暦」は寒松の日記で、史料価値が高いと言われています。その中から、「元和キリシタン弾圧事件」について書いているので、要約している現代の文献から書き出してみます。



総本山 建長寺の扁額

\* 龍派禅珠と「元和キリシタン弾圧事件」

元和9年（1623）7月、三代将軍となった徳川家光は、ただちに江戸キリシタン信徒100名を牢獄に送りました。この中には、芝村代官・熊沢忠勝の娘婿にあたる隠れキリシタン（洗礼名レオン）竹子屋権七郎（たけごやごんしちろう）がいました。その妻・夏も洗礼を受け、ルヒイナという名をもつ信者。夏は故郷の芝村に逃げ帰り、龍派禅珠に助けを求めました。長徳寺の大檀越である代官・忠勝の娘の危急に、龍派禅珠は広い人脈を総動員して、幕府の重臣に助命を乞いました。

しかし、将軍の意にそむく願いは簡単には聞き入れられず、同年10月、とうとう夏は牢獄に送られてしまいます。そこで、龍派禅珠は牢獄に同行し、役人に、夏が長徳寺の檀徒であること、今後は、キリシタン信仰をやめさせることを訴え、そして、龍派禅珠が責任をもって保護観察し夏を長徳寺へ5年間幽閉しますと重ねて訴え、夏の救いだしに成功するのです。

- 夏が芝村へ逃げ帰った時に持ってきたとされている阿弥陀如来坐像の厨子が「如意輪観音堂」（川口市芝西 1-19-7）に祀られていた。次にこの阿弥陀如来坐像について書きます。

\* 如意輪観音堂の阿弥陀如来坐像



阿弥陀如来坐像  
胎内マリア観音  
十字架



如意輪観音堂  
川口市芝西 1-19-7

如意輪観音堂の堂内には阿弥陀如来坐像を安置した厨子があり、「あけると目がみえなくなる」と言い伝えられていたが、第二次世界大戦後になって、文化財の調査のため開帳されると、この像は、木造漆箔（しっばく）着色の、座高は29.3cmで、光背の光縁部（こうえんぶ）には蓮華に似せて麦穂の形が図案化され、巧みにキリスト教関係の紋様が入り入れられていた。

また、首は胴部から引き抜け、胎内にはヒノキ材一木造の（高さ13.2cm）の左手に子供を抱えた立像のマリア観音（マリアがイエスを抱えている姿と考えられる）とキリスト像を付した「銅製の十字架」（長8.7cm、厚さ3mm、イエス像は身の丈3.3cmで、タガネ止めとなっている）がおさめられていた。

仏像は：昭和34年3月20日 県指定文化財となり

埼玉県立歴史と民族博物館（さいたま市大宮区高鼻町 4-219）に寄託されている。

\*（川口市教育委員会の解説と埼玉県歴史散歩―埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会編より引用）

\* あとがき

蕨・宝樹院での「渋川公」の供養祭から始まって、その寺紋の「丸に二引両」のことで、上司である長徳寺を表面だけですが、歴史好きの者として、「元和のキリシタン弾圧事件」が、この地方迄及んでいることにビックリでした。そして、住持の龍派禅珠（号は寒松）師が、徳川家康からの命で足利学校の校長になった。また、徳川秀忠の命で鎌倉・建長寺のトップにもなられたというのも初めて勉強させられました。

\* 参考文献として、蕨教育委員会の文言、川口市教育委員会の文言、川口物産観光協会、栃木県人物風土記、あなたの知らない埼玉県の歴史（山本博文著）、埼玉県歴史散歩―埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会編、PC ウィキペディアから引用しました。ありがとうございました。

また、この近辺には、下の画像の歴史的寺社もあり、歴史好きにも、そして散策コースとしても面白いと思っています



氷室神社



羽盡（はぞろ）  
神社



慈星院

埼玉県蕨市中央1丁目 付近



1 : 11,000 相当

地図上の1センチは約110メートル  
 印刷中心は 東経 139度41分26秒 北緯 35度49分31秒

埼玉県川口市芝4丁目 付近



1:11,000 相当

地図上の1センチは約110メートル  
印刷中心は 東経 139度41分29秒 北緯 35度50分 5秒